

# スカウト おおいた

第35号

2012年11月1日 発行  
日本ボーイスカウト大分県連盟  
編集 県連総務委員会

## ご挨拶

大分県連盟理事長 戸高有基



三指

この度、「スカウト大分」が復刊されました事をお喜び申し上げますと共に関係者の皆様に感謝申し上げます。また、平素より本運動にご支援を

賜っている皆さま方に厚く御礼申し上げます。

1905年英国で発祥したボーイスカウト運動は、我が国では少年団日本連盟として大正11年（1922年）に発足し、本年で90周年を迎えました。大分県も本運動との関わりが深く、昭和初期には九重飯田高原に日本連盟野営訓練場を置き、後藤新平総長もみえられたと聞いています。

本運動も100年を経て、世界中に3,000万人の仲間を集め、自己の精神的・肉体的向上と他者への奉仕を目的に日々活動しています。

現在、地球上にはいろいろな問題があります。地域間、人種間、宗教間に於ける紛争対立、また貧困や疫病、災害などです。

私たちは、スカウト運動を通して、この様な諸問題の解決へ取り組む責務があります。

それぞれのスカウトが『誓い』と『おきて』に添って日々の活動の積み重ねの中で、自己研鑽をし、友情や平和について考え実践して戴きたいと思えます。昨年3月11日に発生した東日本大震災では、悲しいことですがスカウトの仲間にも被災者がいました。しかし、この復旧支援にも全国から多くのスカウト達が参加してきました。「そなえよつねに」この様な時こそ、日頃の訓練が役立つものと確信できました。

大分県連盟は、この11月より公益法人として新たな一歩を踏み出す事となります。

青少年育成の使命を持った公益法人として、自負自覚し責任を持って活動・運営を行ってまいります。成年スカウトの皆様には、積極的に講習・研修・実習所に参加戴いています。また、富士スカウトへの挑戦も増えてきています。

2015年には、44年ぶりに世界スカウトジャンボリーが山口県きらら浜で開催されます。この年代にめぐり合うスカウトは幸運です。県連盟としても積極的に支援を致しますので、一人でも多くのスカウトが参加して海外スカウトとの友情交流を深めて頂きたいと思えます。

皆さま方には、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

## 『おもてなし立国日本』

プログラム委員長 森井哲也

2015年夏、世界161ヶ国、約3万人のスカウトが山口県きらら浜に集い、第23回世界ジャンボリーが開催される予定です。お迎えする立場の日本のスカウトは、どのような準備をすればよいのでしょうか。「アメリカのディズニーランドではチップの習慣があるそうですが、日本のディズニーランドや、有名旅館でもそれはありません。あるのは相手の気持ちを察し、さりげなくおもてなしをし、一銭も要求しない、気づかいの文化が我が国にはあるのですよ。」という文章を読んだことがあります。

そういえば、「人のお世話をするように」「そして報いを求めぬよう」後藤新平初代総長のことばを思い出しますよね。

『気づかいの心』を持って世界のスカウトにおもてなしをする。さて、何を如何にする？相手とコミュニケーションがとれないでは話になりません。ちょっとだけ英会話の訓練を始めませんか？ちょっとだけ……

国際交流をしたスカウトには必ず英会話が出来なくて苦労した。もう少し話せるように準備しておけばよかったと、言っています。いまからでも間に合います。

23WSJに向けて“そなえよつねに”！

## 「スカウトおおいた」再発行によせて

大分県連盟コミッショナー 内田日出男

ボーイスカウト大分県連盟が、公益法人として新たなスタートをするこの時に「スカウトおおいた」が再発行されることになりましたことを大変嬉しく思っています。

先に発行された、渡辺彰総長遺稿集「三つのつとめ—神、他人、自分」にも記載されているように「スカウト活動は、スカウトが自主的にスカウト精神と社会人として役に立つ技能を身に付けるもので、誰かが教え込むものでもなく、押し付けるものでもない。

組織はボランティア指導者がスカウト活動をしやすくし目的を誤らぬように手助けするための、ボランティア指導者の組織である。従って、それは異なった意見を尊重しあい、時代による変化を受け入れられるゆるやかな包容力をもった、しかし基本精神をともにする組織

でなければならない。身体で学び身に付けよ(learning by doing)である。」のように、スカウティングスピリッツを決して忘れることなく、社会に受け入れられる大分県連盟の組織であり続けなければならないと思います。

その為には、これまで多くの諸先輩の皆様が心血注いでこられたスカウト運動に参画させていただいていることに喜びを感じて、共に学び共にスカウトとして成長して行く、また、その努力をして行くことが大切であると思っています。

この新たなスタートの時に合わせて、皆様と共に今一度「スカウティングとは」を自らに問う機会にとし、新たな一歩を力強く踏み出して行きましょう

そして、「スカウトおおいた」が、これからその輪を広げ、組織力を強固にする栄養源となっていくことを願っています。また、その努力をして行きます。

## 防災講演会

### 『東日本大震災 釜石の奇跡に学ぶ』報告

去る9月1日防災の日にボーイスカウト岩手県連盟理事長末永正志氏を大分県建築士会主催でお招きし『東日本大震災 釜石の奇跡に学ぶ』題して講演いただきました。末永氏は釜石市の防災課長を務めていた経験の中で、このたびの大震災に救護活動に奔走され 4度〜3度もの厳寒の下、3週間も停電した過酷な環境下、住民の緊急移動、食料を得るための緊急隊の結成と派遣など、「衣食住」「医療」「情報」など生命を支える最低限の必要を求めて懸命に動かれたのです。その実体験を映像と共に講演され、非常事態にこそ人間としての真価が発揮されるのだと末永氏は話されました。

長い年月に渡ってボーイスカウト活動の隊長リーダーを務めてこられた末永氏は大奮闘したことの中で、「万一の時にあれば重宝」な物として、笛・ロープ・小型ナイフ・懐中電灯・ライターなどの活用を例示されました。

最後に末永氏は、家族で会議や話し合いを持つことの大切さを強調されました。正しい情報を家族でも共有し、家の中と周りの安全対策を考えること。いざとなればまず自分が積極的に行動することが大事です。また地域コミュニティの課題にも言及されました。となり近所との挨拶や声かけや共同がどれだけあるのかが実はすごく大事になってくるのです。地域の行事イベントには進んで参加したいし、フェイストゥフェイスの関係や絆を地域に深めることが、実は重要な防災対策の柱なのだと説明され講演会を終えました。

## 大分市生活文化展参加

去る10月7日大分市生活文化展に、ボーイスカウト活動のPRのため、活動状況のパネル写真展示や、災害時の炊飯実演、ロープ結びの講習などを行いました。



# スカウトが出したウィーンへの手紙

大分1団 阿南 國康

過日 奈良県の野口圭一郎さん、宮崎県の豊秀昌彦さんたちから、大分1団へ在籍しており、1953年（昭和28年）にウィーンのボーイスカウト宛に手紙を書いた中山欽吾スカウトの消息についての問い合わせです。

大分県連盟ボーイスカウト運動史「弥栄の歩みに」の大分第1団の項に、同年5月29日細田連盟長（知事）のウィーン訪問に際し、スカウト中山欽吾ほか4名が、帆船模型とともに手紙を託した、との記述がある。

団・県連盟とも登録原簿は昭和32年以前のもので、見あたらず、何人かのOBに聞くも要領を得ず暗礁に乗り上げかけた。たまたまインターネットで検索したら、大分県立芸術文化短期大学の学長が同姓同名であり、急遽大学事務局を訪問し、面会を申し込んだ。

あいにく学長は不在であったが、学長の出身中学は大分市立碩田中学とのこと。趣旨を説明し後日面談願えないだろうかとお願ひした。翌日大学より電話があり、手紙を書いたのは本人に間違いのない旨の回答があり



中山欽吾大分県立芸術文化短期大学学長

後日、村上副団委員長と同道し面談致しました。碩田中学では3年違いと言うことで昔話や、当時のボーイスカウト活動などに話が盛り上がりました。59年ぶりの出来事であり、ご本人もびっくりした様子でした。当時中学1年生であり、隊長に勤められて手紙を書いたとのこと。戦後の混乱がやっと収まりかけた頃ですが、身をもって感じた、平和の尊

さや、友愛の精神があちこちに伺える手紙でした。また、当時の制服を着た提示いただきました。大分1団のネッカチーフは現在も同じ図案を使用していますので、持参したネッカチーフを着用してもらいました。現在は学長として、毎日忙しく活動されていますが、学生に講話するときなどは、当時学んだ、「ちかいとおきて」の精神を思い出しながら取り組んでいるとのことでした。音楽教育を通じてワールドワイドに活動されている、中山学長の今後の活動を祈念したいと思います

## 平成24年度 富士章 交付

### 富士章

- 荒金 修一 別府9団
- 本田 未玲 中津8団
- 小屋野 柊佑 中津8団
- 島田 恵輔 中津8団
- 木本 匠 中津8団
- 弓張 頌佳 中津8団

平成24年度に富士章を取得された方々です。誠におめでとうございます。

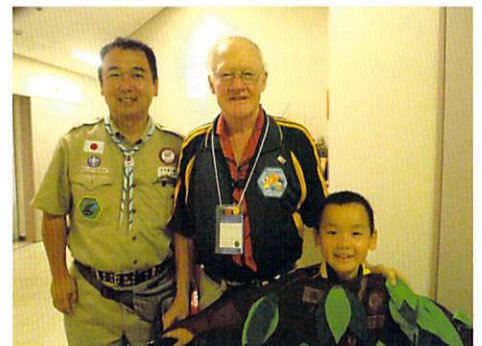


## 第11回日本アグーナリー 参加報告

大分第5団 ボーイ隊副長 山村 宗久

私は今回大分県代表として滋賀県で開催されたアグーナリー参加して来ました。国内外の障がいを持った沢山のスカウトと五日間に渡り研修をして来ました。色々な子供達と接した中で障がいがある子供達と、健常者と呼ばれる普通の子供達との違いはどこにあるのだろうか？と思いました、それは目の輝きが違うということです。ハンデを背負いながらも一生懸命に生きようとしている姿を見てとても感動しました。

「障がい者に対する偏見はその交流の無さに生まれる、交流する事で心に響く揺さぶる経験が出来る」という事を教えられました、本当に素晴らしい大会でした。



創始者バーデンパウエル卿のお孫さん マイケル・バーデンパウエル氏と一緒に

## 各団活動

### 中津第8団

夏期キャンプに  
思うこと

後に九州北部  
豪雨と命名され、  
豪雨の爪跡が深

く残る耶馬溪路を抜けて、玖珠町の伐株山憩いの森キャンプ場で8月18日から一泊二日のBVS & CS 夏期キャンプ大会を開催しました。登山道は倒木や土石流の跡に阻まれて自然の驚異を思い知らされた今年のキャンプでした。

私の中では、夏期キャンプは一年間の活動の集大成です。スカウトが日々の活動で養ったスカウト技能をこのキャンプで全開して欲しいと願い、スカウトと一緒に楽しむことです。(CS隊長若山登)



### 杵築第1団

杵築第1団は、スカウト10名・リーダー10名の計20名で、つきに1度の隊集会をしています。



今期の活動としては、2月にナイトハイク、7月上旬にカブトガニの産卵場の清掃奉仕、8月は、9月のキャンプと日程が重なってしまったため、9月15日「ス

カウトの日」と日程交換し、杵築市内や杵築の観光スポットの清掃奉仕をしました。9月には杵築第1団の野営(キャンプ)。また、その他の隊集会では各スカウト章の取得を目標とし、その内容を含んだ活動をしました。〈ハイキング(杵築の史跡めぐり)、登山、ロープワーク、デイキャンプ(テント張りや調理)、自転車の修理と完全分解(破壊?)など。

### 別府第9団

BS8名・CS15名・BS15名・VS16名・RS1名L10名で去る9月8日、今期のスタートをしました。新しく15名の仲間の入団であり今期は発団35年目であること。また、若干の指導者交代もあったために集会・訓練に対するプログラム編成の変化が見られる活動の展開が期待できる。また、保護者会の協力・支援はさらに組織化されるとことにより活動の支

援もさることながら団・隊運営に寄与すること大であり、指導者においては活動訓練に集中できることがわが団の特徴であると言えよう。

最後に、今期はカブ・ビーバーフェスタの当番として既に準備にかかっています。楽しみにご参加下さいますようお願いしています。



### 大分第1団

班長、次長、上班!とよく呼びかけたスカウトのとき

とにかく我が班が1番と競争していた設営、調理、ロープワーク、通信手段の手旗。国旗の取り扱いも班長に習った。制服の思い出は、列車の中が進駐軍の米兵で満員のときに、米兵がシートを手ではたいて掛けなさいといったスマートさ。これと同じ経験をリーダー研修のときに鹿児島で旅行中のご婦人が、その制服に思い出があります、京都で私に席を譲ってくれたこどもの制服です。と言われたこと。

制帽のハットで焚き火を煽いだこともあった。

キャンプが1番、班で献立を考えて材料を分担して持ってきた。炊事の得意な次長、歌の上手な上班、皆でよく歌った。ハイキングで、月の浜辺のキャンプファイヤーで、ジャンボリーの歌、富士訓練の歌、

ベンチャーのアワード1997年京都議定書を受けてミドリカーテンとCO2、削減報告。大分の町並みの英語版案内書、をアワードにしたベンチャー、1947年ボーイスカウト大分第1隊、発隊。そして2012年今からも、よく歌う歌のように、とこしえに保たん明るき心、スマートに、大分第1団スカウト。



## 大分第2団

大分2団は、発足50周年を昨年迎え、総勢72名の大きな団体です。平成24年度の上進・入隊式では、新たに2名の新入隊員を迎え入れ徐々にですが確実に成長している団です。佐藤団委員長がよく、われわれリーダーや保護者に語ってくれることの1つに次のようなことがあります。

他の団に誇れることの1つに、リーダー同士の仲がとってもよいことです。このおかげで、ビーバーからベンチャーまでの活動内容がお互い分かり、時には助け合い、人数の少ないリーダーですが、ダイナミックでスカウトたちを満足させる活動を実施できています。中でも、ビーバー隊の母の日プレゼント企画・カブ隊のマジックショー大会・ボーイ隊のAPUでの国際交流・ベンチャー隊の100キロハイクは、スカウトたちの上進したい

という気持ち  
を高める活動  
の1つとなっ  
ています。

また、強力な  
バックアップ  
である保護者  
会も今年で6  
年目を向かえ  
ます。



## 大分第5団

日本のボーイスカウト運動の黎明期にスカウト運動の発展に貢献した日本のアンデルセン・久留島武彦先生の故郷は大分県玖珠郡です。大分5団はこの玖珠町で毎年5月5日に行われる日本童話祭に参加しています。

ボーイスカウト運動100周年記念行事で、県下のボーイスカウト全国でパレードに参加した平成19年以来、龍の子太郎・不思議の国アリス・ゲゲゲの鬼太郎と毎年童話のキャラクターに扮装してボーイスカウトをアピールしています。そして平成24年度の今年は赤ずきんちゃんに変身し5回目の出場を果たしました。本年の参加でオオカミに扮した補助者の感想をご紹介します。

昨年の童話祭は震災で中止、私は今回初めての参加であった。前回パレードに出場したチームは、入賞したと聞いていた。保護者も参加と聞き、自分たちもがんばって入賞を狙わねばと厚く燃えた。そして2週間、子供そっこのけで、自分の衣装作りに精を出した。

当日は晴天。沿道の人たちに手を振り、笑顔を見て楽しんだ。パレードの後、日本のアンデルセンと言われる「久留島武彦」先生の偉業を『わらべの館』で初めて



知った。こんなにすごい人がいたなんて、と大変勉強になった。最後は竜門の滝で涼を取りクールダウン。こんなにメニューの充実した日はなかなか無いよね～と思うのであった。補助者って、子供より楽しんでいいのかな？本当に参加して良かった。

## 大分第9団

ボーイスカウト大分第9団は、平成24年9月15・16の両日にわたって開催されたリレーフォーライフ大分に参加いたしました。

このイベントは、日本対がん協会の主催で、もともとはアメリカの医師が「癌に立ち向かう患者さんの勇気を讃え、彼らを励まし支援したい」という思いから24時間大学のグラウンドを走り続け、彼に賛同した多くの仲間たちが寄付を寄せたことから始まり、翌年からは交代で24時間歩く、ウォーキングイベントとして広がったものです。

大分では今年で5年目となり、我々ボーイスカウト大分第9団は去年に引き続き2回目の参加となりました。参加者はベンチャー隊3名、ボーイ隊9名の12名で参加、15日の12時に集合し、テントの設営等を行い、12時半から開会式に参加、それから24時間交代で歩きました。翌日の午前10時に弥栄太鼓を披露する予定でしたが、台風の接近に伴い天候が悪化、16日13時まで歩く予定でしたが、太鼓の演奏を7時半からさせていただき、雨の中9時から閉会式、10時に終了となりました。一緒に24時間歩くことや太鼓の演奏により、がん患者であるサバイバーさんを少しは勇気付けることが出来たと思えます。



### 由布第1団

由布第2団は、8月各隊キャンプを行いました。カブ隊は8月24～26日、庄内町口ノ原ふれあい広場、下界と遮断されたような環境の中で行いました。河川浴、早朝の魚釣りなどを体験。ビーバー隊はカブ隊と同じ場所で8月25と26日の2日間。河川浴や工作などを楽しみました。ボーイ隊は恒例の5泊6日夏季野営8月12～17日、団ハウス（挾間町向原）隣接の



ちびっこ広場で単独実施、雷雨や炎天下の中、全期間立ちかまどでの薪炊飯でした。ベンチャー隊は13日にボーイ隊合流し野営工作指導（乾燥台）。15日にかけて湯平・ゆふいん温泉への移動キャンプで泉質研究に取り組みました。それぞれの進歩を感じたキャンプでした。

### 津久見第1団

津久見第1団にとって、四浦半島は毎年団キャンプを開催するホームグラウンド。青少年研修センターの目の前には、ウミガメが産卵にくるぐらい豊かな海が広



がっています。

テーマが「海に遊び、海に学ぶ」ということで、丸太と浮きをロープで固定して大きなイカダを作り、大海原へ漕ぎ出したりと、思う存分にウォーターアドベンチャーを楽しむことができました。

真っ黒に日焼けしたスカウトの姿、立ちかまどでの食事作り、海に輝く夕日、波の音、キャンプファイヤーでの交流会、どれもが印象的なキャンプでした。



## 公益法人に認可されました

予てよりの懸案でありました社団法人日本ボーイスカウト大分県連盟は、阿南事務局長の格別の努力により、去る10月22日大分県より公益社団法人として認可されました。事務手続きを経て11月1日公益社団法人日本ボーイスカウト大分県連盟として登記され発足いたしました。いよいよ公益法人として自覚を持ちなお一層の青少年健全育成の使命を果たしましょう。

## 祝賀会

来る平成25年1月13日(日)17:00よりトキハ会館にて団役員指導者の皆様のご参集をいただき公益社団法人認可の祝賀会を開催いたします。新たなる発展を願い交流を図りたく何卒ご参加くださいますようお願いいたします。

## 県連盟今後の予定

- 11月11日 パイオニアリング (七瀬自然公園)
- 12月2日 スカウティングスキル研修会
- 12月9日 新登録システム説明会 (大分市コンパルホール)
- 12月16日 第4回理事会
- 1月13日 団委員長会同 (大分市コンパルホール)
- 1月13日 公益社団法人認可祝賀会 (トキハ会館)
- 3月3日 第5回理事会
- 3月10日 平成25年度登録審査受付
- 3月23日～24日 カブビーバーデー